

AmiVoice® Ex7 Orthopaedic 導入事例

診療内容のカルテ入力時間が大幅に短縮、今では無くてはならない **AmiVoice®** です。

医療法人社団 翔永会 山田整形外科
院長 山田 敏幸先生
所在地 東京都品川区
診療科 整形外科、スポーツ整形外科、
リハビリテーション科、内科、皮膚科
導入時期 2009年2月



Before

・電子カルテの記載内容を充実させる為の入力作業が負担になっていた。

After

・入力時間が大幅に短縮、同じ時間でカルテの内容が以前よりしっかり記載可能に。

Q. 当ソフトを活用したきっかけについて教えてください。

電子カルテを導入した際に紙カルテの時と比較してカルテの記載に時間がかかってしまい大変な思いをしておりました。整形外科は短い時間に多くの患者様を診察しなくてはなりません、カルテの記載も出来るだけしっかりとしたかったため藁をもすがる思いで、マスコミ等で聞いていた **AmiVoice®** に飛びつきました。



Q. 当ソフトのご利用方法について具体的に教えてください。

診察中、問診をしながらマイクを片手に持って患者様の訴える事をそのままオウム返しにしゃべりながら入力をしています。入力変換に学習機能があるので使っているうちにスムーズに変換できるようになります。時々誤変換してしまう事が気になりますが、紹介状や診断書など発行前に読み返すものはすぐに気がつくので全く問題はなく、作業効率が大幅にUPしました。

Q. 当ソフトを使用することでどのような効果がございましたか？

私は、ブラインドタッチ入力ができないので指一本でキーボードをたたきながら診察をしていると、患者様もスムーズに会話ができないため気にされ「先生キーボードの練習をしなくちゃ」とからかわれたりしていました。今では「音声入力なんてすごいですね」と覗き込んで関心をしめられる事もあり話題になります。必須である診療内容のカルテ入力時間が大幅に短縮されたため患者様に向き合う時間が大幅に増えました。今では無くてはならないAmiVoiceです。

Q. 今後、製品に期待する機能などについて教えてください。

キーボード入力よりもはるかに早く入力することができます。記載が早くなるため、次の患者様の回転(診察)が早くなりました。患者様に向き合いながら話すので聞かれたくない内容は小声で音声を入力しています。こもった声や噛んでしまった時の補正機能やマイクの感度Upを希望します。ハンズフリーの入力を希望しますが、診察室間を移動しながら診察をするためヘッドホン型マイクの使用ができません。便利なマイクの開発を希望します。市町村や基幹病院名は標準で登録をしていただけると助かります。



Advanced Media, Inc.